



コメドールだより 総集編

【おわりに】

2018年9月で2年間の活動が終わります。図画工作・手工芸・運動遊び…色んな地区のコメドールで300人近くの子供達に図画工作教室を行いました。

初めは子供達が対象でしたが、保護者や公立の保育園の先生、教員養成校の学生など、子供達に関わる方々にも図画工作教室を行う事ができました。

活動の最後に子供達と大きな作品作りができたので、ご紹介します。

活動で出会った方々に心から感謝しています！！

活動結果

- ① 各施設の子供達の図画工作のスキルが向上した。
- ② 保護者や保育者、教員養成校の学生等に図画工作や作品作りの方法を紹介できた。
- ③ 子供達が日本に興味を持つようになった。「こんにちは。さようなら。ありがとう。」を日本語で言う子供も…(^o^)

【隊員紹介】

2016年度2次隊
長江 茉莉子

職種:青少年活動

【活動期間】2016年10月
～2018年10月

【2年を振り返って】

ドミニカ共和国第二の都市サンティアゴ市内の貧困地域にある児童福祉施設「コモドル」。
地域によっては小学校に図工の授業が無かったり、経済的事情から小学校に通えなかったりする事があります。
その為、活動を通して子ども達に「自分で考えて作る」という機会を作り続けてきました。

そして2年間の活動を通して、子ども達は「描く（書く）、塗る、切る、貼る」等の基礎的な図画工作のスキルが上達しました。



【写真①初めての図工教室】子ども達と最初に作ったのは輪飾りで作った髪飾りでした。

そして、成長した子ども達と一緒に一つの大きな作品を作る事になるとは、2年前には想像もできませんでした。

【活動の集大成】

2018年7月頃から、各施設で改修工事が始まりました。内装や壁なども新しくなり、とても綺麗になりました。
そんなある日、同僚から「マリコ、新しい壁に子ども向けの絵を描いてほしい。」という要望がありました。
年少組のクラスにできた新しい壁に大きな木のイラストが欲しいとリクエスト。その為、初めての壁画に挑戦しました！



【写真②初めての壁画】壁画を描くのは初めてなので、友人がペンキ塗りを手伝ってくれました♪

後日、その壁画を見た同僚や子ども達から「もっとコモドルの壁に絵が欲しい！」という話が上がりました。
最初は私と友人の2人で…という話でしたが、年長の子ども達から「私も（僕も）描きたいな…」という声が上がりました。
「コモドルは子ども達の為の施設だし、いっしょに描こう」と声を掛けると喜んで参加する子ども達。
「マリコの教室に参加していてよかった。筆や絵の具の使い方は覚えたから、大丈夫だよ！」と真剣に嬉しそうに言う子ども達。
子ども達と作った壁画を紹介します。

① サン・チャルベル地区



【左】子ども達にペンキの使い方、塗り方を説明します。

【右】年少の子ども達も壁画に興味津々。「何してるの？何を描いているの？」と質問攻め(笑)



【写真③子ども達と作った壁画:コメドール正面】

② ロス・サラドス地区



私が下書きをした後に年長の子も達交代で塗りました。

名前を呼ばれるまで近くでじっと見つめる子も…!(^^)!



数を知らない子が多いので、1から10の数字を書いて数字を見る機会を作りました。

【写真④子ども達による子ども達の為の壁画】

【私（僕）できるよ！】

活動の初めは、筆の持ち方を知らずに紙にたたきつけるようにして塗る子、ハサミを武器だと思って喧嘩の時に使おうとする子、クレヨンを食べようとする子（理由を聞いたら「綺麗な色で美味しそうだったから」）等、様々な子ども達がいました。でも、作品作りを通して道具の使い方を練習すると、一生懸命取り組む子ども達。失敗したら「教えてマリコ！」と言ってやり方を教わりに来る子ども達。子ども達の個性あふれる作品と子ども達の笑顔と笑い声に囲まれて過ごす日々でした。



【写真⑤クリスマスリース】持ち帰って自宅に飾る楽しみもできました。

【体験したから分かること】

その後も壁画を描いてほしいと他のコメドールからも話があり、子ども達や先生達と作っています。プロの方から見たら、完璧な壁画ではないかもしれませんが、子ども達が自分たちの通う施設の環境（壁画）を作るという過程が重要だと思いました。今まで壁に落書きをしたり、蹴ったりしていた子達も、壁画作りに関わった後は「ここは僕（私）が塗ったんだよ。」と壁画を大切にするようになりました。他にも「壁画を作るのって大変なんだね。手が疲れたよ。」、「楽しかったけど緊張した。」と物を作る時の大変さや責任感に気づく子ども達もいました。改めて「体験」の大切さを感じました。



【写真⑥私も！】自宅に帰った後にもう一度コメドールに来て、別の壁画作りに参加する女の子。

【Muchísimas Gracias por todo!! 】（本当にありがとうございました！！）

私が2年間活動出来たのは、いつも支えてくれた家族や友人達、そしてドミニカ共和国で出会った子ども達や保護者、同僚、友人達のおかげです。

ドミニカ共和国で活動する機会をくれた JICA 青年海外協力隊、配属先のカリタス・サンティアゴ、活動先のコメドールの子も達や先生、保護者の方々、任地で出会った友人達に心から感謝しています。ありがとうございました！！

日本に帰るまでが活動なので、最後まで安全第一で頑張ります。

